

桜蔭俳話会 四月句会（第三五四回）

推薦の句

口遊ぶドレミの唄や別れ霜 明美

鑑賞：ペギー葉山さんへの優れた弔句である。

花時のパレードうしろより戦車 明美

鑑賞：平時と戦乱の予兆。一句の中に大きな断絶がある。

争ひは何処にありや山桜 ヤエ子

鑑賞：咲き誇る山桜に浸れる今を大事にしたい。実感の句である。

仏の間畳替えして春深し 眞壽

鑑賞：仏間は先祖の霊が今もいるところでもある。「仏間の畳替え」からは、作者の先祖の崇拜の念を感じる。「仏」と「間」の間に「の」を入れたのが効いている。

行く春や医療費自動精算機 かおる

鑑賞：叙情的な「行く春」と、「無機格的という他はない「医療費自動精算機」との対比が良い。

春風に転がる帽子旅はじめ 友子

鑑賞：春の旅の浮き立つ気持ちを、帽子の動きに巧みに代弁させている。

直角に曲がる路地裏春の月 幸

鑑賞：月光の路地裏。何かの思いを吹っ切るように角を曲がったのであろうか。

添削の句

原句：真白なる老後計画春深し 明美

添削案：白くなる老後計画春深し

理由 単に「真白なる」では、当初から計画を立てていない意味にも取られる。計画変更を余儀なくされた、白紙になったという意味を出した方が良い。

原句：入学式の立札の前撮影会 友子

添削案：入学の立て札カメラ入れ替はり

理由：お馴染みの場面であるが、撮影会は少し固い。

原句：孤独死や跡片付に躑躅燃ゆ 眞壽

添削案：孤独死の跡片付や躑躅燃ゆ

理由：視点の独自性は良いが、三段切れになっている。

原句：訪ふ人も稀なる寺の八重桜 邦子

添削案：訪ふ人の影なき寺よ八重桜

理由：稀かどうかは、定点観測を一定期間続けなければ分からない。

原句：廃校にロックのリズム花湧けり 明美

添削案：廃坑のロックのリズム花湧けり

理由：廃校、廃線等は俳句の常用語。安易な使用は避ける。

原句：鶯の声に我家の茶の旨し 幸

添削案：退院の午後の一服ほととぎす

理由：退院後の安堵感をどのように表現するかを工夫したい。

原句：形身着るに母の顔あり春深し

添削案：形見着る母に似し顔春深し  
理由：言葉をもう少し整理したい。

原句：母好みし猫も踏ませぬすみれ草  
幸

添削案：猫好きな母遠ざけし猫すみれ  
草

理由：言葉をもう少し整理したい。

原句：リハビリをさあ始めよう春一番  
ヤエ子

添削案：リハビリの始めの朝よ春一番

理由：言葉をもう少し整理したい。

原句：よいよいのグランドゴルフ花吹雪  
かおる

添削案：障害を忘れし一打花吹雪

理由：言葉遣いも一定のルールの範  
囲内で。

原句：寅さんの気配の寺や草団子  
友子

添削案：寅さんの声する寺や松の芯

理由：気配という婉曲表現よりも断定し  
た方がよい。寅さんに草団子はつきも  
の。

要再考の句

春深し折り目かすれし江戸古地図 才  
美

理由 古地図と折り目の句立ては、既に  
ある。

(文責:増田 守 不在投)

句: 古野明美、松浦かおる)